

令和 2 年度 千歳市市民評価会議議事録

会議名	市民評価会議（第 6 回）		
日時	令和 2 年 6 月 30 日（火）14：00～16：30	場所	市役所本庁舎 2 階庁議室
出席者	委員：5 名、アドバイザー：1 名、事務局：3 名		

評価対象 施策	（ 1 ）地域子育て支援の充実 （ 2 ）学習機会の充実 （ 3 ）介護保険事業の充実 （ 4 ）観光客の満足度を高める受入れ環境の充実
会議概要	4 施策について、第 2 回及び第 3 回市民評価会議におけるヒアリング内容を踏まえ、評価のまとめを行った。 今後の作業としては、本会議において抽出された評価結果を、事務局が報告書（案）として取りまとめ、第 8 回市民評価会議に諮ることとした。

ヒアリング・評価内容

<p>（ 1 ）地域子育て支援の充実</p> <p>・ 施策内容の方向性「維持」 実施コストの方向性「維持」</p> <p>【委員 A】 地域の子育て支援を充実するといっても、例えば町内会で取り組もうとすれば個人情報の問題があって進まない。地域と情報を共有するなど、壁を乗り越える仕組みが必要ではないか。</p> <p>【委員 B】 地域での子育てを考える上で、交通安全や防犯対策など他施策との連動が不可欠。</p> <p>【アドバイザー】 相談体制を構築する上で他機関との連携がしっかりできているという印象を受けた。 また、転入者に対して市がこれだけ積極的に関わっているというのは凄い。他の自治体ではここまで出来ていない。</p> <p>【委員 A】 参加者にも非常に好評だと聞いているので、今後も継続してほしい。</p> <p>【委員 B】 このような取組が移住・定住者の推進に繋がっているのではないか。</p> <p>【委員 C】 メールによる相談だけでなく、相談する側の敷居を下げるのが重要なので、SNS などのあらゆるツールを利用した相談について検討し、市民にとって相談しやすい環境を整えてほしい。</p>

(2) 学習機会の充実

・施策内容の方向性「維持」 実施コストの方向性「維持」

【委員C】

構成する事業は今後も継続することが必要だが、一方で、これまで参加していない人をどう取り込むかという課題がある。

【委員A】

施策名と取組内容が一致していないという印象を受ける。

【委員B】

学習機会を充実させる上で、どう参加者を増やすかということが重要だと思う。ポイント制度などを導入することも検討してほしい。

【委員C】

具体的な取組が駄目という訳ではない。方向性として「維持」するのは良いが、活動としての発展は求められる。そうしなければ時代に追いついていけない。

【委員A】

高星大学の取組が人気なのであれば、2年に1度から毎年入学に変更するなど、希望する人が参加できるようにするべきではないか。修学旅行のバスの都合で参加人数を制限するというのもったいない。

【アドバイザー】

ヒアリング時には、学習の機会の必要性について、もう少し市民に伝わる様な取組が求められるとの議論があった。

【委員C】

市民を巻き込んだ取組が必要だ。

【委員B】

受講者が発表する機会（アウトプットする場）が必要だと思う。特に高齢者の持つ知識を若者に言葉で伝えられるような機会があると良いと思う。

【委員C】

成果指標については、参加者だけでなく、市民全体のニーズを把握できるような指標への見直しを検討してほしい。

(3) 介護保険事業の充実

・施策内容の方向性「拡充」 実施コストの方向性「重点化」

再ヒアリング

施策内容の方向性「拡充」と実施コストの方向性「重点化」の具体的な内容（事業）について、担当課（高齢者支援課）より説明。

委員からは、説明のあった事業が国の制度によるものなのか、市独自の事業などについて質疑を行った。

【委員D】

多岐にわたる事業を行っており、一部の事業をNPO法人に委託しているが、そのガバナンスコントロールについては、しっかりと行っていただきたいと考えている。また、委託している事業内容についても把握できていないのではないかという印象を受けた。

国の制度によるものと市独自の取組の区別が今日の再ヒアリングでも明確にならなかったという印象である。

【委員A】

たくさんの事業を抱えており、その中ですべての事業を実施できているという自身が持てないため、施策の成果・進捗状況を「B」評価としていると思う。方向性としては、「拡充」「重点化」しなければならない分野なので、担当課の評価通りで良いと思う。

【アドバイザー】

なかなか計画的に介護保険事業を進められていない自治体がある中で、事業の整理がしっかりされているという印象を受けた。

【委員B】

方向性としては、担当課の評価で問題ないと思う。

【委員C】

国の制度に縛られている中で、どう市独自の取組をするかということだろう。

また、施策を推進するための福祉人材不足への対応については、しっかり取組を進める必要がある。

【アドバイザー】

福祉全体の現在の考え方としては、外部にどんどん委託し活用していこうということになっているので、外部に委託できる部分は委託するという姿勢は問題ないと思うが、一方でガバナンスをしっかりとしなければならない、という現実もある。

福祉人材の獲得については、どこの自治体でも課題となっており、難しい問題だ。

【委員B】

認知症予防カフェ「きづな茶屋」の取組など、認知症推進事業の回数を増やし、市民の協力を得ながら実施してほしい。興味のある市民は多いと思う。

【委員C】

事業内容が多岐にわたることから、第7期総合計画における指標は、それらを網羅する指標に見直すべきであり、市民に理解してもらえるようなものにするべきである。

(4) 観光客の満足度を高める受入れ環境の充実

・ 施策内容の方向性「拡充」 実施コストの方向性「重点化」

【委員C】

本施策は他施策と比較して新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けている。その影響がないものとして評価するか、考慮して評価するのかという問題がある。

個人的には、新型コロナウイルスの影響はあまりなかったものとして評価せざるを得ない、と考えている。我々は新型コロナウイルスの専門家ではなく、その実態を知っている訳ではない。

影響を踏まえた評価ではない、という文言をどこかに付す必要がある。

【事務局】

報告書の前段で、その旨を記載する。

【委員C】

施策内容の方向性を「拡充」、実施コストの方向性を「重点化」するのであれば、その成果が掴めるような指標の設定が必要だ。

【委員A】

ヒアリング時の印象としては、色々な取組が盛り込まれた夢のある話を語っていただいたという印象を受けた。地に足を付けた取組みをしてほしい。

【委員B】

インバウンドへの対応などを考えると、国際交流や商業などの他部局との連携が必要。

また、マイクロツーリズムについてだが、市には社会見学をやっている企業も多数あるので、

そこを観光に活かすことで近場での観光にもなると思うので、検討すべきではないか。

【アドバイザー】

観光を推進することでの市民にとってのメリットがもっと見えるようにしなければ、市民の理解は得られないのではないかと思う。